

なお、必ずしも社会活動とは言えないが、家庭内で担っている仕事や役割は健康維持効果や生きがいの源である場合もあり、その実態を把握しておくことは意味のあることである(表9)。

表9 家の中での役割や仕事

1. 食事のしたく	8. 庭・花壇・菜園の管理
2. 洗濯	9. ごみ捨て・ごみ処理
3. 掃除	10. 留守番や電話番
4. 家計や財産の管理	11. 家業の手伝い
5. 孫の世話や保育	12. 大工仕事や家の修繕
6. 親や配偶者の介護	13. 漬物・乾物・味噌づくりなど
7. ペット・家畜の世話	14. その他(具体的に→ )

基本チェックリストとあわせて把握しておくことは、高齢者の社会活動・役割の評価というポジティブな評価という面から高齢者の残存能力・潜在能力を再発見する意味でも意義深い。

また、これらの調査は、事業評価の意味でも定期的にその経過を把握することが大切である。高齢者の調査の場合、信頼性の観点からは調査員による面接聞き取り法が望ましい方法である。

## (2) 社会活動・役割の重要性に関する広報及び健康学習

地域における社会活動や役割の持ち方には地域の産業、都市部と農村部、地理的条件によっても異なる。従って、一般論としての社会活動や役割をもつことの意義に関して広報活動や健康学習を行ってもあまり興味・関心を引かない。地域の実態データに基づいた情報発信や健康学習が大切である。当該地域のデータを用いて社会活動や役割を持っている人の実態を示したり、社会活動をしている人の健康度や生きがい感が社会活動をしていない人より勝っていることを具体的に示したりすることで社会活動や社会参加することの有用性が実感をもって理解してもらえることになる。

例：高齢者を対象とした社会参加促進のための「役割づくり」に関する健康学習

### 1回目：テーマ「やってみたい、やってほしい役割について」

- ・調査に基づいた社会活動・役割の実態について簡単に報告する。
- ・参加者を6～7名のグループにわけ、スタッフ1名(司会役)が加わる。
- ・各々の意見は、付箋に記し模造紙に張りながら発表。それについて話し合う。(話し合いのルールとして、「出された意見を否定しない」「できないことの原因を探さない」「うなずきと笑顔を大切に」「話題を独占しない」など)
- ・各グループの内容をまとめて発表(司会役)。
- ・発表に対して全体のまとめ役が住民参加・協働の視点から意味付けを行う。

### 2回目：テーマ「1回目に挙げられた役割を推進するためにはどうしたらよいか」

- ・1回目で得られた資料は、スタッフの実現可能性と有効性の観点から優先順位をつけ、発表。大切な役割の優先順位の確認をする。
- ・その役割を地区の中に設定するためにはどのような条件整備(予算、組織、人)が必要か、付箋紙に書き出しながら自由に討論する。その条件整備は行政が担うことか、住民でもできることか等についても話し合う。
- ・各グループの意見をまとめて発表(司会役)。
- ・発表したものに對し全体のまとめ役が意味付けを行う。

高齢者の社会活動や役割の推進のためには、高齢者本人に対する普及啓発だけではなく、地域の若い世代へ向けての情報発信がむしろ重要である。地域ぐるみで高齢者が活動しやすいような